

問題先送り

今年もあとわずかとなりました。この時期になると、年賀状の準備もそろそろ始まり、来年の干支は辰で、あっ、今年の干支は「うさぎ」やったんやーと、年初はだれもが年賀状などで知っていた干支が春ぐらいに忘れ、再び思い出す時期です。私は幸い今年年男だったので、なんとか覚えていましたが・・・。

年末の風物詩とも言える今年の新語・流行語大賞が発表され、大賞は「なでしこジャパン」に決まりました。その他トップテンには絆・帰宅難民・3.11・風評被害など、東日本大震災関連の項目が多く入りましたが、あえて大賞には明るい話題で日本中に元気と勇気を与えてくれた「なでしこジャパン」が選ばれたのだと思います。ちなみに、去年は「ゲゲゲの・・・」でその前は「政権交代」でした。2011年の世相を表す今年の漢字は「絆」が選ばれました。これも震災関連で、ちなみに、去年は暑い夏を表す「暑」で、その前は懐かしき政権交代等を表す「新」でした。

年末の風物詩といえば、私らが注目すべきは来年度の税制改正大綱です。前回も書きましたが、例年と違って来年度の税制改正は特殊事情もあって、史上まれにみる小幅の改正となりました。大きな理由としては、消費税の増税を盛り込んだ「社会保障と税の一体改革」の議論を控えていることから抜本的な改正はすべて先送りにしたことにあります。今回の小幅の改正でさえ、調整力不足から自動車関連税制で相当ドタバタしました。

臨時国会が9日で閉幕しました。復興増税については、前回書いた内容と土壇場で変更になり、所得税は2013年1月から25年間2.1%上乘せ、個人住民税均等割りとは2014年6月から年1000円を10年間増額となり、当初案より期間が約倍になりました。その復興増税を盛り込んだ第3次補正予算などは通過したものの、国家公務員給与を平均7.8%削減して2年間で5800億円の財源確保する法案や国会議員定数削減法案などの予算削減に関する重要法案は先送りされました。

結局、復興増税で国民負担増が確定し、国会議員や公務員の給与は下がるどころか、冬のボーナスは前年比で4.1%の増加。国の財政は危機的な状況であることは多くの国民が理解し、消費税の増税についても「やむなし」と思っているはずですが、増税を求める国会議員や国家公務員が自ら身を削ることをしないのであれば、消費税増税や社会保障費の負担増を求めても国民は納得するはずはないと思います。

消費税増税について首相は野党との協議を訴えています。党内でも相当反対論が多く、党内野党とも言える反主流派を説得する方が難しいと思われます。果たして今の政権で歴史的な消費税の増税や社会保障の大改革が出来るのか。ここ何年かの政治は選挙対策で「問題先送り」型が定着し、結果的に将来にツケを回す無責任な状態が続いております。今日の財政の危機的状況に陥った要因のほとんどは「問題先送り」にあると思います。

改革派の元官僚出身でテレビでもおなじみの古賀茂明氏はある番組で良いことを言っていました。「改革をせずに増税すればギリシャになる」と。つまり、管前首相も参議院選挙で消費税10%を訴えた時に「皆さんギリシャになってもいいんですか」と演説で言っていました。つまりこのまま放置すればギリシャのように財政破たんするということを言いたかったのだと思います。しかし、ギリシャの消費税率はすでに20%を超えています。それでも破たんしたのは公務員天国とも言える改革をしなかったからだと言われています。「増税をしなければギリシャになる」は、「単にお金が足りないから増税する」と言っているのに等しく、出血が増え続けているのにそれを止めずにいくら輸血を増やしたってダメだということに他なりません。

今国会だけをみると、予算削減の改革を先送りし、国民負担増だけを求める構図、と言われてもしかたがないと思います。「改革に不退転の決意で臨む！」と表明する野田首相ですが、政権が発足してから100日が過ぎました。アメリカでは100日間はハネムーン期間として国民が大目に見てくれるという風習があるようですが、年末から年明けにかけて、風呂の桶(ゆーばかり)内閣と言われないような、野田政権の「本気度」が問われる大事な時期になりそうです。